

2018 年度 事業報告書

〔 自 2018 年 4 月 1 日
至 2019 年 3 月 31 日 〕

当財団は、「産業、経済、文化の発展に貢献する科学技術、芸術等を中心とする分野で著しい貢献をした者の顕彰、研究又は普及啓発に対する助成等を通じてその促進を図ると共に国際相互理解の増進に努め、もって社会の啓発に貢献し、人類の平和と繁栄に寄与する。」ことを目的として、1984年4月12日に設立された。

1985 年に第 1 回京都賞授賞式、第 1 回研究助成金贈呈式を開催し、事業を開始した。また、2011 年 4 月 1 日に公益財団法人の認定を受け、新公益法人制度に基づいた運営を開始した。

2018 年度事業計画（概要）

I. 顯彰事業

1. 第33回(2017)京都賞関連行事「Kyoto Prize at Oxford」(英国ワックスフォード)の支援
2. 第34回(2018)京都賞の審査および受賞者の決定

対象分野 先端技術部門 : バイオテクノロジー及びメディカルテクノロジー
基礎科学部門 : 数理科学(純粋数学を含む)

思想・芸術部門：美術（絵画・彫刻・工芸・建築・写真・デザイン等）

第34回(2018)京都賞授賞式および関連行事の開催

第34回(2018)京都賞関連行事「京都賞シンポジウム」(米国サテライト校)の支援

3. 第 35 回(2019)京都賞候補者推薦の受付および審査選考の開始
4. 第 36 回(2020)京都賞授賞対象分野および審査機関委員の決定

Ⅱ. 助成事業

1. 2018 年度研究助成金贈呈式の開催
2. 2019 年度研究助成の申請受付と助成対象案件の審査および決定
3. 2020 年度研究助成選考委員の決定
4. 2018 年度特別助成対象案件の審査および助成
5. 2019 年度特別助成審査委員の決定
6. 新規研究助成制度創設に向けた取り組みの実施

Ⅳ. 社会啓発事業

1. 米国「倫理と叡智のための稲盛国際センター」の活動支援
2. 米国京都賞シンポジウム共催大学への寄附
3. 京都大学「京都こころ会議（Kokoro Initiative）」への寄附
4. 京都大学「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」への寄附
5. 財団主催のサイエンスフェスタ定期開催に向けた取り組みの実施

I. 顕彰事業

1. 第33回(2017)京都賞に関する事項

(1) 英国オックスフォード大学主催「Kyoto Prize at Oxford」の開催支援

2018年5月8日、9日の2日間、第33回(2017)京都賞受賞者を迎えて開催された英国オックスフォード大学が主催する「Kyoto Prize at Oxford」を支援し、英国から、欧州及び世界に向けて京都賞を発信した。

2. 第34回(2018)京都賞に関する事項

(1) 京都賞審査機関による審査

国内、海外の有識者より推薦された候補者について、2017年度に開催された各部門専門委員会及び審査委員会に引き続き、京都賞委員会を開催し、受賞候補者の審査を行った。

(2) 受賞者の決定と発表

2018年6月15日開催の定時理事会において、第34回(2018)京都賞受賞者を下記3氏に決定し、同日の記者会見にて発表した。

①先端技術部門受賞者

カール・ダイセロス 博士 (Karl Deisseroth)

職 業：神経科学者

スタンフォード大学 教授

ハワード・ヒューズ医学研究所 研究員

国 籍：アメリカ

贈賞理由：

「光遺伝学の創成と因果関係を証明するシステム神経科学の展開」

緑藻類の光依存的イオンチャネルであるチャネルロドプシンに着目し、ミリ秒単位で神経活動を光で制御できる方法を開発し、新たな学問領域「光遺伝学 (Optogenetics)」を創成した。これにより、システム神経科学に神経集団活動と脳機能の因果関係を証明可能とする方法論を与え、大きな変革を引き起こした。

②基礎科学部門受賞者

柏原 正樹 博士 (Masaki Kashiwara)

職 業：数学者

京都大学 数理解析研究所 特任教授

国 籍：日本

贈賞理由：

「現代数学諸分野への多大な貢献：D加群の理論の基礎からの展開」

D加群の理論を確立し、代数解析学の構築に決定的な役割を果たした。特にその

展開において、リーマン-ヒルベルト対応の確立と表現論への応用、結晶基底理論への貢献をはじめとした多くの業績により数学の諸分野にわたって影響を与え、その発展に大きく貢献している。

③思想・芸術部門受賞者

ジョーン・ジョナス 氏 (Joan Jonas)

職 業：美術家

マサチューセッツ工科大学 名誉教授

国 籍：アメリカ

贈賞理由：

「パフォーマンスとニューメディアを融合させた新しい芸術表現の先駆者であり、50年にわたり現代美術の最先端を走り続ける芸術家」

パフォーマンスとビデオアートを融合させた新しい表現形式を創始し、進化・洗練させることで現代美術の最先端を走り続けてきた。観る者に多様な解釈を許す迷宮的な作品によって、1960年代アヴァンギャルドの遺産をポストモダン芸術の枠組みへ発展的に継承し、後続世代へ多大な影響を与えてきた。

(3) 京都賞審査機関委員の公表

受賞者の発表に併せて、第34回(2018)京都賞審査機関委員を下記の通り公表した。
(役職は公表時現在)

[京都賞委員会]

榊 裕之 (委員長)	豊田工業大学 学長
巖佐 庸	関西学院大学 理工学部 教授
梶山 千里	福岡女子大学 理事長・学長
柏木 博	武蔵野美術大学 名誉教授
川人 光男	(株)国際電気通信基礎技術研究所 脳情報通信総合研究所 所長
佐藤 文隆	京都大学 名誉教授
長木 誠司	東京大学 大学院総合文化研究科 教授
中西 重忠	京都大学 名誉教授
野依 良治	科学技術振興機構 研究開発戦略センター センター長
本庶 佑	京都大学 高等研究院 副院長・特別教授
森 重文	京都大学 高等研究院 院長・特別教授
鷺田 清一	京都市立芸術大学 理事長・学長

[審査委員会]

①先端技術部門

川人 光男 (委員長)	(株)国際電気通信基礎技術研究所 脳情報通信総合研究所 所長
齋藤 洋一	大阪大学 大学院医学系研究科 特任教授
篠崎 一雄	理化学研究所 環境資源科学研究センター センター長
須田 年生	熊本大学 国際先端医学研究機構 機構長・卓越教授

永井 良三	自治医科大学 学長
中西 友子	東京大学 大学院農学生命科学研究科 特任教授
萩原 正敏	京都大学 大学院医学研究科 教授
平岡 眞寛	日本赤十字社和歌山医療センター 院長

②基礎科学部門

森 重文（委員長）	京都大学 高等研究院 院長・特別教授
合原 一幸	東京大学 生産技術研究所 教授
大石 進一	早稲田大学 理工学術院 教授
桂 利行	法政大学 理工学部 教授
黒川 信重	東京工業大学 名誉教授
小谷 元子	東北大学 大学院理学研究科 教授
坪井 俊	東京大学 大学院数理科学研究科 教授
室田 一雄	首都大学東京 経済経営学部 教授

③思想・芸術部門

柏木 博（委員長）	武蔵野美術大学 名誉教授
逢坂 恵理子	横浜美術館 館長
大島 洋	写真家
河本 信治	美術史家
建畠 哲	多摩美術大学 学長
松隈 洋	京都工芸繊維大学 デザイン・建築学系 教授
松本 透	長野県信濃美術館 館長
本江 邦夫	多摩美術大学 美術学部 教授

[専門委員会]

①先端技術部門

萩原 正敏（委員長）	京都大学 大学院医学研究科 教授
伊川 正人	大阪大学 微生物病研究所 名誉教授
佐久間 一郎	東京大学 大学院工学系研究科 教授
塩見 美喜子	東京大学 大学院理学系研究科 教授
菅野 純夫	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 非常勤講師
尾藤 晴彦	東京大学 大学院医学系研究科 教授
不二門 尚	大阪大学 大学院医学系研究科 教授
藤吉 好則	名古屋大学 細胞生理学研究センター 客員教授

②基礎科学部門

桂 利行（委員長）	法政大学 理工学部 教授
岩田 寛	東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授
岡本 久	学習院大学 理学部 教授
斎藤 毅	東京大学 大学院数理科学研究科 教授

神保 道夫	立教大学 理学部 特任教授
田中 利幸	京都大学 大学院情報学研究科 教授
舟木 直久	早稲田大学 理工学術院 特任教授
宮岡 礼子	東北大学 高度教養教育・学生支援機構 総長特命教授

③思想・芸術部門

本江 邦夫（委員長）	多摩美術大学 美術学部 教授
五十嵐 太郎	東北大学 大学院工学研究科 教授
後小路 雅弘	九州大学 大学院人文科学研究院 教授
笠原 美智子	（公財）石橋財団 ブリヂストン美術館 副館長
藏屋 美香	東京国立近代美術館 企画課長
島 敦彦	金沢 21 世紀美術館 館長
西野 嘉章	東京大学 総合研究博物館 インターメディアテク館長
不動 美里	姫路市立美術館 副館長

3. 第 34 回(2018)京都賞授賞式及び関連行事の開催

（１）受賞者歓迎レセプション

日 時：2018 年 11 月 9 日（金）18:30
場 所：京都ホテルオークラ
主 催：京都府、京都市、稲盛財団
貴 賓：高円宮妃久子殿下（稲盛財団名誉総裁）
かれん・ケリー 駐大阪・神戸アメリカ合衆国総領事
出席者数：200 名
内 容：受賞者の入洛を歓迎し、夕食会を開催した。

（２）第 34 回(2018)京都賞授賞式

日 時：2018 年 11 月 10 日（土）15:00
場 所：国立京都国際会館 大会議場
貴 賓：高円宮妃久子殿下（稲盛財団名誉総裁）
受 賞 者：カール・ダイセロス 博士（先端技術部門）
柏原 正樹 博士（基礎科学部門）
ジョーン・ジョナス 氏（思想・芸術部門）
出席要人：かれん・ケリー 駐大阪・神戸アメリカ合衆国総領事
新原 浩朗 経済産業省 経済産業政策局 局長
大使・総領事関係者 35 名
国会議員関係者 5 名
学術・文化機関の長 36 名
出席者数：1,200 名

祝 辞：ドナルド・J・トランプ アメリカ合衆国大統領

安倍 晋三 内閣総理大臣

内 容：高円宮妃久子殿下ご臨席のもと、国内及び海外から多くの招待者を迎え授賞式を開催した。式典では、井村裕夫会長から受賞者へ京都賞メダルとディプロマ、賞金1億円が贈られ、受賞者は受賞にあたってのスピーチを行った。また、内閣総理大臣と受賞国代表者から祝辞が寄せられ、受賞者の栄誉を讃えた。

(3) 晩餐会

日 時：2018年11月10日（土）18:15

場 所：グランドプリンスホテル京都

貴 賓：高円宮妃久子殿下（稲盛財団名誉総裁）

出席者数：800名

内 容：授賞式に続いて、高円宮妃久子殿下ご臨席のもと晩餐会を開催し、多くの出席者が受賞者を祝福した。

(4) 記念講演会

日 時：2018年11月11日（日）13:00

場 所：国立京都国際会館 大会議場

出席者数：800名

演 題：「脳の秘密を照らす光遺伝学—単細胞藻類のタンパク質の研究から」

カール・ダイセロス 博士

「代数解析と50年」 柏原 正樹 博士

「イン・ザ・シャドウ・ア・シャドウ」 ジョーン・ジョナス 氏

内 容：受賞者が上記のテーマで講演を行い、自らの研究や創作を通じて培われた人生観や世界観を披露した。

後 援：京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都商工会議所、大学コンソーシアム京都、京都新聞社、朝日新聞社、産経新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、共同通信社、時事通信社、NHK、KBS 京都、エフエム京都

(5) 和輪庵夕食会

日 時：2018年11月11日（日）18:30

場 所：和輪庵

内 容：受賞者と受賞者家族を囲んで、懇親夕食会を開催した。

(6) ワークショップ

日 時：2018年11月12日（月）、2018年11月14日（水）

場 所：東京大学医学部、京都大学数理解析研究所、ロームシアター京都

内 容：部門ごとに、受賞者による講演、研究者や専門家による講演等を行った。

①先端技術部門「脳機能への因果的アプローチ—光遺伝学とその先」

出席者数：170 名

共 催：東京大学大学院医学系研究科

後 援：文部科学省新学術領域研究「脳情報動態」、京都府、京都市、NHK

協 賛：日本神経化学会、日本神経科学学会

②基礎科学部門「代数解析学の展望」

出席者数：90 名

共 催：京都大学数理解析研究所

後 援：京都府、京都市、NHK

協 賛：日本数学会

③思想・芸術部門「パフォーマンスとメディア・アートのラディカリズム
—ジョーン・ジョナスとその変遷あるいは継承—」

出席者数：130 名

企画・制作：ロームシアター京都

後 援：京都府、京都市、NHK

(7) 鹿児島での関連行事

「京都賞受賞者鹿児島講演会」の開催協力

開 催 日：2018 年 11 月 16 日（金）

場 所：宝山ホール（鹿児島県文化センター）

出席者数：1,500 名

主 催：京都賞受賞者講演会実行委員会

内 容：鹿児島県、鹿児島市、鹿児島大学および鹿児島商工会議所が主体となって組織された「京都賞受賞者講演会実行委員会」による講演会の開催に協力した。併せて、社会啓発事業における青少年育成の観点から、世界の知性に触れる機会を提供することを目的に、鹿児島県の離島の高校 8 校より計 235 名の高校生を講演会へ招待した。

(8) 広報

①テレビによる報道

授賞式は、NHK（全国）を中心に、関西では ABC（朝日放送）、MBS（毎日放送）、KBS（京都放送）、NHK、NHK WORLD 等において、その模様が報道された。また、鹿児島講演会は、KKB（鹿児島放送）、MBC（南日本放送）、KTS（鹿児島テレビ）において、その模様が報道された。

②新聞・雑誌等による報道

全国紙をはじめ通信社や雑誌による取材があり、授賞式およびその他の関連記事が国内外で多数掲載された。（海外でも WEB 中心に京都賞行事が紹介された。）また、京都新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、産経新聞において、京都賞受賞者の特集記事が

掲載された。雑誌では、『美術の窓』1月号、『ART collectors'』1月号、『日経サイエンス』2月号、『美術手帖』4月号において、特集記事が掲載された。

(9) 京都賞を周知する広告展開

京都賞への集客を目的として、下記の通り広告を展開した。

①屋外広告

- ・2018年11月1日から11月17日までの期間、京都の幹線道路、烏丸通のJR京都駅から丸太町通に至る3.5kmの区間と、京都賞の主会場となった国立京都国際会館専用道路の街灯110ヶ所に、京都賞の開催を告げる京都賞街灯バナーを掲出した。
- ・商業施設壁面を利用した大型サインシートを掲出した。
- ・京都市内のバス停73ヶ所に大型広告、京都市営地下鉄「国際会館駅」8面に、デジタルサイネージ（映像等の電子看板）を掲出した。

②新聞広告および印刷物

- ・京都新聞および朝日新聞に、「記念講演会募集」全5段カラー広告を掲載した。
- ・記念講演会および各ワークショップのポスター、チラシを作成した。

③ウェブサイト

- ・公式ウェブサイト「京都賞」にて、記念講演会募集の特別サイトを作成した。

④映像制作

- ・京都賞授賞式、記念講演会、受賞者インタビュー映像を、それぞれ日本語版、英語版で作成し、公式ウェブサイト等にて公開した。

(10) 米国での関連行事

「2019年京都賞シンポジウム」の開催協力

開催日：2019年3月19日（火）～21日（木）

場所：カリフォルニア州サンディエゴ市

出席者数：1,500名

主催：京都賞シンポジウム組織

共催：サンディエゴ州立大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校、
サンディエゴ大学、ポイント・ロマ・ナザレン大学、稲盛財団

内容：第34回京都賞受賞者による講演会及び慈善晚餐会の開催に協力した。

4. 第35回(2019)京都賞に関する事項

(1) 京都賞審査機関委員の委嘱

2018年3月9日開催の定時理事会において選任された第35回(2019)京都賞審査機関委員に対し、2018年11月11日開催の第35回(2019)京都賞審査機関合同会議において正

式に委嘱を行った。

(2) 推薦依頼書の発送

ウェブ申請システムによる推薦依頼を、2018 年 7 月 11 日、推薦依頼方針に基づき、国内、海外の有識者に対してメールにて送信した。また、当該システム外となる書面による推薦依頼書を、2018 年 7 月 20 日、郵送にて発送した。

(3) 推薦の受付

2018 年 9 月 13 日をもって推薦書の受付を締め切った。

(4) 京都賞審査機関による審査

各部門専門委員会を計 12 回、審査委員会を計 6 回開催した。
(京都賞委員会については 2019 年度に開催)

5. 第 36 回(2020)京都賞に関する事項

(1) 授賞対象分野の決定

2019 年 3 月 15 日開催の定時理事会において、第 36 回(2020)京都賞授賞対象分野を次の通り決定した。

先端技術部門 : 情報科学
Information Science
基礎科学部門 : 生命科学(分子生物学・細胞生物学・神経生物学)
Life Sciences (Molecular Biology, Cell Biology, Neurobiology)
思想・芸術部門 : 思想・倫理
Thought and Ethics

(2) 京都賞審査機関委員の決定

2019 年 3 月 15 日開催の定時理事会において、第 36 回(2020)京都賞審査機関委員を選任した。

II. 研究助成事業

1. 稲盛研究助成

(1) 2018 年度研究助成(現 稲盛研究助成)に関する事項

- ① 2018 年度研究助成金(現 稲盛研究助成金)贈呈式の開催
開 催 日 : 2018 年 4 月 14 日(土) 14:00

場 所：グランドプリンスホテル京都

出席者数：135 名

内 容：2018 年 3 月 9 日の定時理事会において承認された 50 件に対し、総額 5,000 万円の贈呈を行った。また贈呈式に引き続いて、2018 年度盛和スカラースソサエティ総会が開催され、国立科学博物館 標本資料センター コレクションディレクター 真鍋 真 博士が「人類は恐竜から何を学ぶのか？」というテーマで講演を行った。

※ 附属明細 1「2018 年度助成事業 研究助成対象者並びに研究題目」を参照

（２）2019 年度稲盛研究助成に関する事項

① 募集要項の発送

2018 年 5 月下旬に、全国国立大学法人（選抜）、公立大学（選抜）、私立大学（選抜）、大学共同利用機関法人・その他研究機関（選抜）の合計 141 大学・機関宛に対して研究助成（現 稲盛研究助成）募集要項と申請書を発送した。

② 応募の締切

2018 年 7 月 25 日をもって申請書の受付を締め切り、550 件の応募を得た。この応募分について、各委員による予備選考を行った。

③ 稲盛研究助成への改称

2018 年 9 月 19 日、理事全員の書面による同意をもって、研究助成から稲盛研究助成に改称することを決定した。

④ 稲盛研究助成選考委員会による選考

2018 年 12 月 7 日と 12 月 8 日に稲盛研究助成選考委員会を開催し、50 件 5,000 万円の助成対象者を選考した。

⑤ 稲盛研究助成対象者の決定と発表

2019 年 3 月 15 日開催の定時理事会において、2019 年度稲盛研究助成対象者及び助成金額を決定、プレス発表を行った。

※ 附属明細 2「2019 年度助成事業 稲盛研究助成対象者並びに研究題目」を参照

⑥ 稲盛研究助成選考委員の公表

助成対象者の発表に併せて、2019 年度稲盛研究助成選考委員を下記の通り公表した。
（役職は公表時現在）

村上 正紀（委員長） 立命館大学 学長特別補佐

[自然科学系]

巖佐 庸	関西学院大学 理工学部 教授
岡田 清孝	龍谷大学 RECフェロー
梶山 千里	福岡女子大学 理事長・学長
片岡 一則	(公財)川崎市産業振興財団 副理事長
柳 裕之	豊田工業大学 学長
佐藤 文隆	京都大学 名誉教授
中西 重忠	京都大学 名誉教授
西田 栄介	理化学研究所 生命機能科学研究センター センター長
野田 進	京都大学 大学院工学研究科 教授
本庶 佑	京都大学 高等研究院 副院長・特別教授
森 重文	京都大学 高等研究院 院長・特別教授
安浦 寛人	九州大学 理事・副学長

[人文・社会科学系]

佐和 隆光	(公財)国際高等研究所 副所長
田中 成明	京都大学 名誉教授
山室 信一	京都大学 名誉教授
横山 俊夫	静岡文化芸術大学 学長
鷲田 清一	京都市立芸術大学 理事長・学長

(3) 2020 年度稲盛研究助成に関する事項

① 稲盛研究助成選考委員の決定

2019 年 3 月 15 日の定時理事会において、2020 年度稲盛研究助成選考委員を選任した。

2. 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップ

(1) 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップの創設

① 理事会による創設の決定

2018 年 9 月 19 日、知的好奇心に導かれた真理の探求や基礎科学の社会的意義が尊重される文化の醸成を目指し、基礎科学の研究者を長期的に支援するプログラムである「稲盛科学研究機構(Inamori Research Institute for Science：略称 InaRIS)フェローシップ」の創設について、理事全員の書面による同意をもって決定した。

② 内閣府による公益変更認定の取得

2018 年 9 月 21 日、内閣府に対し InaRIS フェローシップ創設に関する公益変更認定申請を行い、2019 年 2 月 5 日、内閣総理大臣より公益社団法人及び公益財団法人の認定等

に関する法律第 11 条第 1 項の既定に基づく認定を取得した。

③ 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップの創設

2018年9月19日の理事会決定および2019年2月5日の内閣総理大臣による公益変更認定を受けて、2月15日、InaRISフェローシップを創設した。また、2月25日、InaRIS創設について、文部科学省（東京）にて記者発表を行った。

(2) 2019 年度 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップに関する事項

① InaRIS 運営委員の決定

2018 年 9 月 21 日、理事全員の書面による同意をもって、2019 年度 InaRIS 運営委員を選任した。

(3) 2020 年度 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップに関する事項

① InaRIS フェロー選考委員の決定

2019 年 3 月 15 日の定時理事会において、2020 年度 InaRIS フェロー選考委員を選任した。

② 公募説明会の実施

2019 年 2 月 28 日から 3 月 7 日にかけて、全国 7 箇所（札幌、仙台、東京、名古屋、京都、岡山、福岡）にて、応募要領について説明会を実施した。

Ⅲ. 社会啓発事業

1. 米国「倫理と叡智のための稲盛国際センター」の活動支援

2018 年 9 月 14 日（木）、米国オハイオ州のケースウェスタンリザーブ大学で開催された 2018 年稲盛倫理賞の副賞として日本人形を贈り、同センターの活動を支援した。

2. 米国京都賞受賞者シンポジウム共催大学への寄附

2015 年より再度 4 年間の寄附継続を合意した京都賞シンポジウム共催 4 大学に対し、第 4 回 20 万ドル（1 校あたり 5 万ドル）の寄附を実施した。（4 年間で 4 大学総額 80 万ドルを寄附）

3. 京都大学「京都こころ会議（Kokoro Initiative）」への寄附

京都大学が、同大学こころの未来研究センターを中心に開催する「京都こころ会議（Kokoro Initiative）」への活動支援として、第 4 回 1,500 万円の寄附を実施した。（6 年間で総額 9,000 万円を寄附予定）

4. 京都大学「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」への寄附

京都賞に対する社会の期待と関心を高めるとともに、学術・芸術の振興に寄与し、併せて京都大学と当財団の協力関係を強化することを目的として、2018年7月22日（日）、有楽町朝日ホール（東京）にて、京都大学との共催による「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」を実施した。また、再調印した寄附覚書に基づき、第2回2,000万円の寄附を実施した。（4年間で総額8,000万円を寄附予定）

5. 日本現代音楽協会への寄附

2018年9月、日本現代音楽協会の運営を支援するため、現代音楽作曲家のデータベースの作成と、第13回現代音楽演奏コンクールを実施するための活動支援として、1,200万円の寄付を実施した。

6. ロームシアター京都への寄附

ロームシアター京都が、日本の伝統芸能を京都から発信することを目的として企画する自主事業「舞台芸術としての伝統芸能」シリーズのひとつとして、2019年2月に開催された能舞「鷹姫」に協賛し、300万円の寄附を実施した。

7. 日本応用数理学会への寄附

国際応用数学連合が4年に1回開催する応用数理国際会議（ICIAM）において、世界的に優れた女性数学者による招待講演（Olga Taussky-Todd Lecture）を継続的に実施するための活動支援として、300万円（1回あたり50万円、2043年開催までの6回分）の寄附を実施した。

8. 日本博物館協会への寄附

2019年2月、日本博物館協会が主催者のひとつである「ICOM（国際博物館会議）京都大会2019」の文化支援の取り組み主旨と、本国際会議を初めて日本に招聘することに賛同し、200万円の寄附を実施した。

9. 「第15回 日本物理学会 Jr.セッション（2019）」の共催

九州大学伊都キャンパスにて開催された日本物理学会第74回年次大会と同時に開催された「第15回 日本物理学会 Jr.セッション（2019）」の取り組み主旨に賛同し、共催した。

10. 「第1回 SSI シンポジウム」の後援

大阪大学の人文科学・社会科学の研究者が中心となって、社会の諸課題を、自然科学の研究者および社会のステークホルダーとともに解決し、将来の社会を構想するために立ち上げた社会ソリューションイニシアティブ（SSI）の取り組み主旨に賛同し、2019年3月19日に開催された「第1回 SSI シンポジウム」を後援した。

11. 「Kyoto Science Session 2018」の後援

京都大学高等研究院（KUIAS）が、国際的に極めて顕著な功績をもつ研究者によるトークセッションとして、「科学の世界を、語り合おう」と題し2018年9月17日に開催した「Kyoto Science Session 2018」の取り組み主旨に賛同し、後援した。

12. 小学生向け教育イベント、第1回「こども科学博」開催に向けた準備

小学校3,4年生を中心とする子どもたちと科学との接点を広げ、将来の日本の学力や科学力の水準を高めようとする試みとして、こどもたちの自ら学びたいと思う探究心を応援する新しいエンターテインメント型教育イベントの企画・準備を行った。第1回「こども科学博」は、2019年8月3日（土）、4日（日）の両日、京都市勧業館「みやこめっせ」で開催する。

IV. その他の活動

1. 会議の開催状況

理事会、評議員会を下記の通り開催し、全ての議案が原案通りに承認された。

（1）理事会

日 時 2018年5月15日（火）

議 案 ・2017年度（平成29年度）事業報告及び決算報告の件

日 時 2018年6月15日（金）

議 案 ・第34回（2018）京都賞受賞者承認の件

・京セラ株式会社第64期定時株主総会議決権行使の件

報告事項 ・代表理事・業務執行理事の業務執行報告の件

・特別顧問選任の件

・サンディエゴでの第17回（2018）京都賞シンポジウム開催の件

・英国オックスフォード大学での第2回「Kyoto Prize at Oxford」開催の件

・第5回「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」（KUIP）開催の件

・主要日程の件

日 時 2018年9月19日（水）

議 案 ・研究助成事業稲盛科学研究機構（InaRIS）フェローシップ創設の件

・既存の研究助成プログラム名称変更の件

・理事会規則改正の件

・助成事業選考規程改正の件

・2019年度 InaRIS 運営委員選任の件

・新規事業を含む2019年度事業計画（予定）及び収支予算（概算）の件

・新規事業を含む2020年度事業計画（予定）及び収支予算（概算）の件

- 日 時 2019 年 3 月 15 日（金）
- 議 案
- ・ 第 36 回(2020)京都賞授賞対象分野の件
 - ・ 第 36 回(2020)京都賞審査に係る委員選任の件
 - ・ 2018 年 9 月臨時理事会決議 助成事業選考規程改正取消の件
 - ・ 稲盛科学研究機構(InaRIS)フェローシップ規程制定の件
 - ・ 2020 年度 InaRIS フェロー選考に係る委員選任の件
 - ・ 助成事業選考規程全面改訂の件
 - ・ 2019 年度 稲盛研究助成対象者並びに助成金額承認の件
 - ・ 2020 年度 稲盛研究助成選考に係る委員選任の件
 - ・ 「こども科学博」開催の件
 - ・ 京都市京セラ美術館における情報発信コーナー設置の件
 - ・ 2019 年度 事業計画及び収支予算の件
 - ・ 定時評議員会開催の件(2019 年 6 月)
- 報告事項
- ・ InaRIS フェローシップ創設に係る変更認定申請結果の件
 - ・ 代表理事・業務執行理事の業務報告の件
 - ・ 第 35 回(2019)京都賞推薦状況報告の件
 - ・ 稲盛倫理賞第 11 回授賞式開催および第 12 回受賞者決定の件
 - ・ 主要日程の件

（２）評議員会

- 日 時 2018 年 6 月 15 日（金）
- 議 案
- ・ 2017 年度(平成 29 年度)事業報告及び決算報告の件
- 報告事項
- ・ 代表理事・業務執行理事の業務執行報告の件
 - ・ 特別顧問選任の件
 - ・ サンディエゴでの第 17 回(2018)京都賞シンポジウム開催の件
 - ・ 英国オックスフォード大学での第 2 回「Kyoto Prize at Oxford」開催の件
 - ・ 第 5 回「京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウム」(KUIP)開催の件
 - ・ 主要日程の件

2. 委員会等の開催状況

（１）第 34 回(2018)京都賞の各委員会

開催日	名称	議題
2018. 4. 1	京都賞基礎科学部門 第 2 回審査委員会	候補者審査
2018. 4. 15	京都賞委員会	各部門受賞者審査

（２）第 35 回(2019)京都賞及び 2019 年度稲盛助成事業の各委員会

開催日	名称	議題
2018. 11. 11	京都賞審査機関合同委員会	審査基本方針決定
2018. 12. 7	稲盛研究助成選考委員会 人文・社会科学系分科会	助成対象者選考
2018. 12. 8	稲盛研究助成選考委員会 自然科学系分科会	助成対象者選考
2019. 1. 6	京都賞基礎科学部門 第1回専門委員会	候補者審査
2019. 1. 12	京都賞先端技術部門 第1回専門委員会	候補者審査
2019. 1. 13	京都賞思想・芸術部門 第1回専門委員会	候補者審査
2019. 1. 26	京都賞先端技術部門 第2回専門委員会	候補者審査
2019. 1. 27	京都賞基礎科学部門 第2回専門委員会	候補者審査
2019. 2. 3	京都賞思想・芸術部門 第2回専門委員会	候補者審査
2019. 2. 9	京都賞先端技術部門 第3回専門委員会	候補者審査
2019. 2. 10	京都賞基礎科学部門 第3回専門委員会	候補者審査
2019. 2. 13	京都賞思想・芸術部門 第3回専門委員会	候補者審査
2019. 2. 23	京都賞先端技術部門 第4回専門委員会	候補者審査
2019. 2. 24	京都賞基礎科学部門 第4回専門委員会	候補者審査
2019. 3. 2	京都賞思想・芸術部門 第4回専門委員会	候補者審査
2019. 3. 9	京都賞先端技術部門 第1回審査委員会	候補者審査
2019. 3. 10	京都賞基礎科学部門 第1回審査委員会	候補者審査
2019. 3. 16	京都賞思想・芸術部門 第1回審査委員会	候補者審査
2019. 3. 23	京都賞先端技術部門 第2回審査委員会	候補者審査
2019. 3. 24	京都賞基礎科学部門 第2回審査委員会	候補者審査
2019. 3. 30	京都賞思想・芸術部門 第2回審査委員会	候補者審査

3. 広報活動

(1) 記者発表の実施

実施日	内容	実施場所／配布
2018. 4. 6	2018 年度 稲盛財団研究助成金贈呈式・盛和スカラーズ ソサエティ総会取材のお願い：資料配布	関係記者クラブ
2018. 4. 12	理事長稲盛和夫「利他の心を永久に」を発表：資料配布	関係記者クラブ
2018. 6. 5	第34回京都賞受賞者発表記者会見案内：資料配布	関係記者クラブ
2018. 6. 15	第34回京都賞受賞者発表：記者会見	稲盛財団会議室
2018. 7. 18	稲盛財団、京都大学高等研究院シンポジウム KYOTO Science Session 2018 を後援：資料配布	関係記者クラブ

2018. 8. 28	第 34 回京都賞ウィーク 記念講演会およびワークショップ開催のお知らせ：資料配布	関係記者クラブ
2018. 9. 25	第 34 回京都賞ウィーク行事概要：資料配布	関係記者クラブ
2018. 10. 25	第 34 回京都賞ウィーク取材要項：資料配布	関係記者クラブ
2018. 11. 7	2019 年、京都を舞台に美術家ジョーン・ジョナスの単独公演&個展を開催！：資料配布	関係記者クラブ
2018. 11. 10	第 34 回京都賞受賞者共同記者会見	国立京都国際会館
2019. 2. 25	稲盛科学研究機構（InaRIS）フェローシップ記者会見	文部科学記者会・記者会見室
2019. 3. 15	稲盛財団研究助成 2019 年度対象者決定：資料配布	関係記者クラブ

（２）刊行物の発行

下記の刊行物を発行し、関係先に配布した。

発行日	内容	発行部数
2018. 5	稲盛財団ニュース 95 号	5, 200 部
2018. 7	盛和スカラーズソサエティ会報 22 号	1, 800 部
2018. 9	稲盛財団ニュース 96 号	4, 800 部
2018. 10	The Inamori Foundation Newsletter No.41	2, 600 部
2019. 1	稲盛財団ニュース 97 号	5, 400 部
2019. 2	The Inamori Foundation Newsletter No.42	3, 200 部

（３）展示物の定期刷新

稲盛財団に関わる展示スペースである京都大学稲盛財団記念館、九州大学稲盛財団記念館、青少年科学センター、ゲストハウス和輪庵、京セラ稲盛ライブラリーの稲盛財団および京都賞の情報を最新版に刷新した。

（４）新聞広告を用いた京都賞の周知

全国主要紙および地域紙に一面カラー広告を掲出し、京都賞の認知拡大を試みた。また、京都賞の理念を分かり易く解説した記事体広告として、一面カラー広告を掲出した。

（５）SNS を用いた情報発信

公式 Facebook ページ「京都賞-Kyoto Prize」において、京都賞や稲盛財団に関連する情報を発信した。（計 49 回）また、Twitter アカウント「KyotoPrize」を運用した。

（６）ウェブサイトの運営

稲盛財団および京都賞の公式ウェブサイトの定期的なコンテンツの更新強化と充実を図った。

(7) フォトブックの作成

写真など視覚的要素から読み手に伝わりやすい冊子として、昨年日本語版と英語版を制作したフォトブックの中国語版を制作した。

(8) 京都市京セラ美術館における情報発信コーナー設置の準備

京都賞の理念を長く広く伝え、京都の象徴としての京都賞という存在を根付かせる試みとして、訪れる人が京都賞に絡めて学問や芸術に関心を寄せる機会を創出する情報発信コーナーの企画・準備を進めた。

2018年度助成事業 研究助成対象者並びに研究題目

100万円/件

	対象者	研究題目
自然科学系	情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 助教 イシカワ アサノ 石川 麻乃	季節性繁殖の多様性を生む原因変異とその生態学的機能の解析
	鳥取大学 農学部 准教授 イワサキ タカシ 岩崎 崇	アグロバクテリウムに頼らない植物ゲノム編集技術の開発
	神戸大学 大学院保健学研究科 特命助教 ウツボ チエ 靱 千恵	インドネシア産植物に含まれるフェノール性水酸化化合物からの新規肝炎ウイルス治療薬シーズの探索
	大阪大学 大学院工学研究科 助教 ウマコシ タカユキ 馬越 貴之	白色ナノ光源によるプラズモン伝播超集束光学顕微鏡の開発
	九州大学 大学院工学研究院 助教 オダ ユカリ 織田 ゆかり	水界面特性制御に向けたポリビニルエーテルグラフト層の創製
	東京工業大学 生命理工学院 助教 カドノソノ テツヤ 門之園 哲哉	化学合成可能な新規フラグメント抗体M _{VH} の創製
	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 助教 カナヤマ マサシ 金山 剛士	炎症促進的な造血前駆細胞を標的とした新規抗炎症療法の開発
	山梨大学 大学院総合研究部 助教 カネモト ダイスケ 兼本 大輔	モバイル超音波診断装置の為のサブナイクスト・サンプリング技術を活用した集積回路
	東京理科大学 基礎工学部 講師 カミムラ マサオ 上村 真生	多臓器転移がんの4次元追跡を可能とするイメージングナノ粒子の開発
	大阪大学 微生物病研究所 助教 カワモト シンペイ 河本 新平	組織内の老化細胞除去における宿主免疫系の役割の解明
	自然科学研究機構 生命創成探求センター 助教 キムラ ユキコ 木村 有希子	移動運動の速度変化に伴う脊髄運動系神経回路の切り替えを制御する脊髄ニューロンの解析
	お茶の水女子大学 基幹研究院 准教授 クドウ カズエ 工藤 和恵	量子多体系における非平衡ダイナミクス:量子情報処理のための基礎研究
	長岡技術科学大学 技学研究院 助教 サカモト モリツグ 坂本 盛嗣	光渦の同軸干渉による高解像度フォトリソグラフィの開発
	九州大学 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 助教 サダキヨ マサアキ 貞清 正彰	新規金属交換反応による高安定性ナノ細孔材料の開発

	対象者	研究題目
自然科学系	大阪大学 大学院基礎工学研究科 教授 スズキ ケイイチロウ 鈴木 啓一郎	生体内ゲノム編集治療技術の開発
	名古屋大学 大学院生命農学研究科 准教授 スズキ タカユキ 鈴木 孝幸	脊椎動物の体の前後軸パターン形成におけるバウプランの分子実体の解明
	信州大学 学術研究院 繊維学系 テニューアトラック助教 タカシマ セイジ 高島 誠司	ヒト非閉塞性乏精子症の発症・亢進メカニズムの理解と制御
	北海道大学 大学院農学研究院 助教 タカスカ タイチ 高須賀 太一	植物バイオマス利用の実現に向けた昆虫共生細菌の分泌する酵素のプロテオーム解析
	大阪府立大学 大学院工学研究科 准教授 タカハシ ヤスシ 高橋 和	超高Q値のシリコンナノ共振器に原子層状物質を接合した新機能光・電子素子の研究
	東京大学 大学院工学系研究科 准教授 チバ ダイチ 千葉 大地	反強磁性金属薄膜の磁気弾性特性とフレキシブル素子への応用
	東京大学 大学院工学系研究科 助教 デウラ モモコ 出浦 桃子	ナノボイド形成によるシリコン基板上への窒化物半導体の高品質結晶成長
	立命館大学 生命科学部 助教 ナカオ シュウ 中尾 周	アスリートに発生する不整脈の分子基盤：時計遺伝子の関与
	広島大学 原爆放射線医科学研究所 助教 ナガマチ アキコ 長町 安希子	周辺骨髄細胞のサイトカイン反応性低下が骨髄異形成症候群を発症させる仮説の検証
	京都大学 大学院医学研究科 特定助教 ナカムラ トモノリ 中村 友紀	霊長類多能性幹細胞と初期分化細胞のキメラ胚作製による厳密な機能評価法の確立
	情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 助教 ナツメ トヨアキ 夏目 豊彰	「オーキシンドェグロン法」を用いてSMC複合体の多様な役割とその異常に起因する疾患の分子機構を探索
	東京大学 生産技術研究所 准教授 ノムラ マサヒロ 野村 政宏	弾道フォノニクスの学理構築と高度な熱伝導制御技術の創出
	北海道大学 大学院理学研究院 准教授 ハママキ ナオ 浜向 直	完全非線形偏微分方程式の境界値問題の解析と応用
	東京大学 大学院理学系研究科 助教 ヒライワ テツヤ 平岩 徹也	上皮組織の能動的な形態形成を実現する数理モデルの発展と検証

	対象者	研究題目
自然科学系	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 助教 フジムラ アツシ 藤村 篤史	次世代ホウ素中性子捕捉療法に向けたホウ素バイオ医薬品の開発
	神戸大学 大学院農学研究科 准教授 フジモト リョウ 藤本 龍	シロイヌナズナにおける後成遺伝学的な雑種強勢発現機構の解明
	大阪市立大学 大学院理学研究科 准教授 フチカワ タロウ 涸側 太郎	社会性昆虫を用いた集団形成による概日行動リズムの安定化効果の解明
	関西学院大学 理工学部 准教授 ホウジョウ マサル 北條 賢	個体の意思決定メカニズムが相利共生のダイナミクスに与える影響
	京都大学 高等研究院 准教授 ホリケ サトシ 堀毛 悟史	金属－有機水素化物による大気中超微量二酸化炭素の補足
	静岡大学 情報学部 助教 マスザワ トモアキ 増澤 智昭	半導体ダイヤモンドを用いた高感度中性子センサの開発
	筑波大学 数理物質系 助教 マツオカ リョウタ 松岡 亮太	分子鎖の撚りあわせを駆使した可変柔軟性ナノシートの創製
	京都大学 大学院医学研究科 助教 ミズタ コウタロウ 水田 恒太郎	<i>In vivo</i> 慢性イメージングによるアルツハイマー病における海馬神経回路機能破綻の機序解明
	名古屋大学 大学院理学研究科 助教 ミツイシ イクユキ 三石 郁之	世界初高感度X線偏光観測衛星IXPE搭載用受動型熱制御素子の開発
	京都大学 大学院医学研究科 特定助教 ムラタ コウイチ 村田 浩一	低酸素における破骨細胞分化促進機構の解明と関節リウマチに対する新たな治療薬の開発応用
	熊本大学 大学院先端機構 准教授 ヤマグチ トモヤ 山口 知也	ROR1による生体膜ダイナミクス制御機構の解明
	北海道大学 大学院薬学研究院 講師 ワタナベ ミズキ 渡邊 瑞貴	細胞膜透過性を付与した配座制御型オリゴペプチドによる細胞内タンパク質の機能制御
	小計 40件	

	対象者	研究題目
人文・社会科学系	京都市立芸術大学 音楽学部 講師 イケガミ ケンイチロウ 池上 健一郎	18世紀後半のドイツにおける「描く音楽」の研究：古典派時代の多角的な音楽文化の解明へ向けて
	九州大学 大学院人文科学研究院 講師 イマイ ヒロマサ 今井 宏昌	第一次世界大戦期久留米における俘虜収容所とドイツ兵：地域からのグローバル・ヒストリー
	金沢大学 人間社会研究域 准教授 ウエダ ヒサオ 上田 長生	加賀藩領社会の構造と運営に関する基礎的研究―地域指導者層十村の職務と機能―
	早稲田大学 社会科学総合学術院 教授 オイカワ コウキ 及川 浩希	資源再配分を通じた金融緩和の経済成長効果についての研究
	中部大学 人文学部 講師 カワカミ フミト 川上 文人	笑顔の進化と発達に関する比較認知発達科学
	大阪大学 大学院法学研究科 准教授 サカグチ カズシゲ 坂口 一成	中国のフォーマルな法的サービスの供給における基層法的サービス従事者の役割と位置づけをめぐる実証的研究
	横浜市立大学 国際総合科学部 准教授 セタ マコト 瀬田 真	国際海洋法におけるプライベート・スタンダードの機能：ISO規格に着目して
	早稲田大学 政治経済学部 准教授 タカハシ リョウ 高橋 遼	開発途上国におけるグリーン・エコノミーへの転換戦略：エチオピアの森林を対象とした混合所有制度の社会実験
	島根大学 生物資源科学部 助教 ナカマ ユキコ 中間 由紀子	占領期沖縄地域における生活改善普及事業の方針と実態に関する研究
	東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授 ニシダ フミノブ 西田 文信	史上初のゾンカ語＝日本語＝英語辞典編纂・出版のためのデータベースの構築
		小計 10件
		合計 50件

※所属・役職は、贈呈式時

2019年度助成事業 稲盛研究助成対象者並びに研究題目

100万円/件

	対象者	研究題目
自然科学系	岐阜大学 大学院医学系研究科 准教授 アベ チカラ 安部 力	前庭－交感神経反射を介する新たな抗炎症機構の解明
	横浜国立大学 大学院工学研究院 テニユアトラック准教授 イイジマ カズトシ 飯島 一智	相互侵入高分子網目ゲルの機能化による間葉系幹細胞の分化制御と膝関節再生
	鳥取大学 大学院工学研究科 助教 イナバ ヒロシ 稲葉 央	ペプチド設計を基軸としたタンパク質内包微小管の構築とその物性解明
	京都大学 大学院農学研究科 助教 イワカミ サトシ 岩上 哲史	除草剤の効かなくなった異質6倍体スーパー雑草の謎に迫る
	京都大学 大学院生命科学研究科 准教授 オオサワ シンヅエ 大澤 志津江	細胞ターンオーバーを介した発生時間軸制御の遺伝的基盤
	東京大学 ナノ量子情報エレクトロニクス研究機構 特任准教授 オオタ ヤストモ 太田 泰友	異種材料転写プリント集積技術の開拓と非線形光量子回路への展開
	名古屋大学 大学院工学研究科 准教授 オカモト ヨシヒコ 岡本 佳比古	新タンタル系材料を用いた革新的低温用熱電冷却素子の開発
	筑波大学 数理物質系 助教 カワシマ ヒデヒサ 川島 英久	藻類バイオマスのユニークな分子構造を活かした高機能性バイオプラスチックの開発
	宇宙航空研究開発機構 研究開発部門 研究開発員 ゴトウ アキ 後藤 亜希	高分子材料表面物性の原子状酸素ビームによる新規制御法開発
	札幌医科大学 医学部 助教 サイトウ アツシ 齋藤 充史	網羅的菌叢解析から探る、肺マイクロバイームに与える肺コレクチンの新たな役割
	首都大学東京 システムデザイン研究科 准教授 サカイ カズヤ 酒井 和哉	暗号化されたデータを用いた秘匿性の高い機械学習アルゴリズムの開発
	名古屋大学 大学院理学研究科 助教 シノハラ ヒデフミ 篠原 秀文	植物モルフォゲンのモデルとなる転写因子PLETHORAの濃度勾配形成・維持機構の解明

慶應義塾大学 理工学部 准教授
シミズ トモコ
清水 智子

新機能材料の発見に向けてのマルチスケール走査型プローブ顕微鏡の開発

大阪大学 大学院基礎工学研究科 助教
シライシ ミヤコ
白石 都

生物界に幅広く存在するEndonuclease Vの普遍的役割の解明

	対象者	研究題目
自然科学系	東京農工大学 大学院工学研究院 准教授 スズキ タケヒト 鈴木 健仁	ゼロ屈折率・無反射透明なテラヘルツ波帯材料の創製
	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 准教授 スズキ ノブハル 鈴木 喜晴	オリゴデンドロサイトによる神経活動依存的な髄鞘形成の分子メカニズム解明
	山梨大学 大学院総合研究部 助教 スズキ マサシ 鈴木 雅視	圧電性希土類添加AlN薄膜を用いた分極反転バイモルフ型振動発電素子の開拓
	理化学研究所 生命機能科学研究センター ユニットリーダー タガミ シュンスケ 田上 俊輔	特殊な結び目状ペプチド合成系の構造解析と創薬利用
	熊本大学 大学院先端機構 准教授 タニモト ショウ 谷本 祥	高次元代数幾何を用いた有理点及び整数点の研究
	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 講師 ツゲ ミツル 津下 充	high mobility group box 1によるインフルエンザ脳症の脳血管内皮障害の病態解析
	電気通信大学 大学院情報理工学研究科 助教 ツダ タクオ 津田 卓雄	地球温暖化監視に資する革新的夜光雲モニタリング手法の開発
	京都大学 大学院工学研究科 准教授 テラシマ タカヤ 寺島 崇矢	両親媒性ポリマーのセルフソーティングに基づく機能性ハイドロゲルの創製
	名古屋市立大学 大学院医学研究科 助教 ニシオ ヒデノリ 西尾 英紀	エピジェネティックな精子形成障害機序の解明による男性不妊症治療法の開発
	北海道大学 大学院理学院 助教 ノブカネ ヒロヨシ 延兼 啓純	ルテニウム酸化物ナノ薄膜における新規高温超電導の探索
	京都大学 大学院医学研究科 講師 ヒラシマ ツヨシ 平島 剛志	細胞集団における力学-生化学フィードバックシステムの数理モデリング
	東北大学 大学院農学研究科 助教 フカサワ ユウ 深澤 遊	倒木の腐朽型が樹木実生の倒木上更新に与える影響の解明
	東京大学 定量生命科学研究所 講師 フカヤ タカシ 深谷 雄志	転写制御における高次ゲノム機能の解明
	北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 講師 マスダ タカシ 増田 貴史	プリンテッド- シリコン エレクトロニック デバイスの実用への挑戦

	対象者	研究題目
自然科学系	岡山大学 異分野基礎科学研究所 特任講師 マスダ タカヒコ 増田 孝彦	核共鳴散乱法を用いた原子核からの紫外線発光検出
	京都産業大学 総合生命科学部 准教授 ミシマ ユウイチロウ 三嶋 雄一郎	遺伝暗号に隠されたmRNA安定性コードの包括的研究
	宇都宮大学 バイオサイエンス教育研究センター 准教授 ミヤカワ ヒトシ 宮川 一志	昆虫以外の節足動物における幼若ホルモンシグナル経路の解明
	金沢大学 新学術創成研究機構 助教 ミヤタ カズキ 宮田 一輝	3次元AFMによる細胞表面揺動構造の液中分子スケール計測
	宮崎大学 農学部 助教 ミヤニシ ヒロシ 宮西 弘	魚類の高塩分味覚受容機構の解明と回遊現象との関連
	岡山大学 大学院環境生命科学研究科 助教 ムネマサ シンタロウ 宗正 晋太郎	高等植物の葉緑体包膜に存在する光応答性プロトン輸送体の機能解析
	愛媛大学 プロテオサイエンスセンター 助教 モリタ マサユキ 森田 将之	ヒト赤血球タンパク質CD55と相互作用する新規マラリアワクチン候補分子の探索
	東京大学 大学院工学系研究科 助教 モリヒロ クニヒコ 森廣 邦彦	鉄(II)イオン応答型RNAi医薬の開発
	大阪大学 大学院医学系研究科 助教 ヤマグチ シンペイ 山口 新平	細胞の全能性を制御する分子基盤の解明
	慶應義塾大学 医学部 助教 ヤマサキ トキワ 山崎 世和	脳機能を制御するシナプスの興奮・抑制バランスの分子基盤
	大阪府立大学 大学院工学研究科 准教授 ユバ エイジ 弓場 英司	マンノース残基導入pH応答性カードラン修飾リポソームを用いる免疫細胞特異的抗原キャリアの構築
	大阪府立大学 大学院工学研究科 准教授 ヨコシ ノブヒコ 余越 伸彦	光渦誘起スピントロニクス of 理論
		小計 40件

	対象者	研究題目
人文・社会科学系	京都大学 学際融合教育研究推進センター 特定助教 アカイシ ダイスケ 赤石 大輔	環境保全活動への参加意欲向上に求められる要因の解明：「芦生の森再生」に向けた市民との対話からの検討
	筑波大学 ビジネスサイエンス系 助教 シュ イイ 朱 藝	「おもてなし文化」の日中比較：異文化ビジネスにおける従業員のサービス精神と実践
	滋賀県立大学 人間文化学部 准教授 タケダ シュンスケ 武田 俊輔	限界集落における祭礼・民俗芸能の継承に関する質的研究：住民・他出者・移住者相互の関係性とそれぞれをつなぐ仲介者が果たす役割を中心として
	横浜国立大学 都市イノベーション研究院 准教授 ナカガワ カツシ 中川 克志	台湾における「サウンド・アート（声音藝術、sound art）」の系譜の研究：王福瑞の事例を中心に
	筑波大学 人文社会系 助教 ネモト タツシ 根本 達	インドの不可触民解放運動史料のデジタルアーカイブ化と仏教僧佐々井の「不可触民になる」宗教実践の研究
	大阪大学 大学院人間科学研究科 助教 ノジマ ナツコ 野島 那津子	‘benefit scroungers’言説にみる新たな排除のスタイルとその生成プロセス
	名古屋市立大学 大学院経済学研究科 准教授 ヒグチ ユウキ 樋口 裕城	共有資源の賦存量に関する情報認知差を解消するための諸施策
	東京藝術大学 大学院映像研究科 講師 マキ ナホミ 牧 奈歩美	全天周および立体映像における描画手法と空間知覚の研究
	東京大学 大学院人文社会系研究科 助教 ヤナギサワ フミアキ 柳沢 史明	芸術史と宣教学史を介した《文明化の使命》の解明：カトリック宣教団によるAOF（フランス領西アフリカ）の造形文化表象に関する研究
	立教大学 社会学部 助教 ヤブキ ヤスオ 矢吹 康夫	見た目問題当事者運動の担い手の動機と啓発戦略の変化
		小計 10件
		合計 50件

※所属・役職は、申請時